

第10回 全国高校野球選手権
青森大会
 ▼第5日▲

光星 VS 青森山田 3回戦で早くも激突



【板柳—八学光星】3回八学光星1死一、二塁、近藤遼一が中越えの3ランを放ち、13-0と点差を広げる＝長根

光星15点圧倒

板柳00000
 八学光星7300X
 (5回コールド) 15/0

(板) 佐々木聖、莞森、佐々木聖、田中

(八) 下山、渡邊、山田、

太山、小林

▽本塁打 太山、近藤(八)

▽三塁打 原(八)▽二塁打 近藤、武岡(八)、佐藤佑(板)

▽試合時間1時間20分(球審＝蝦名、塁審＝小倉梅田、小田)

【評】八学光星は初回2死から、近藤の左翼線二塁打と3連続四死球、澤波、武岡の連続適時打、太山の右越え3ランで計7点。三回には近藤の中越え3ラン

などで5点を加えるなど圧倒した。板柳は五回に1死二、三塁の好機もあったが、得点できなかった。

近藤2試合連続弾

○：八学光星は2戦連続のコールド勝ちで3回戦に弾みをつけた。今大会は3番に座り、三回に3ランを放った近藤遼一は「芯で打球を捉えることを意識した成果」と初戦から2試合連続本塁打に納得の表情だった。

今春までは主軸だったが、仲井宗基監督に「チャンスをつくったり、打ったりしてほしい」と打者としての確実性を買われて打順

変更。一発、よりも出塁を意識した練習に取り組み、今回も長打と四球で3打席出塁と、勝利に貢献した。

青森山田に挑む3回戦は

天王山の呼び声が高い、今大会の序盤戦屈指の好カード。近藤は「全力でぶつかるだけ。緊張も楽しみたい」と、敗れた春季県大会初戦のリベンジに燃えていた。

八学光星・武岡龍世主将(3回戦の青森山田戦に向けて)「最後は気持ち。全員で気力を出して、一丸で勝ちに行く」

板柳・佐藤佑馬(5回戦に右翼線二塁打)「とにかく

つなぐことを考え、直球に狙いを定めて打った